

キミカ、富津市に 新オフィス建設

7月着工目指す

食品用の安定剤などとして使われるアルギン酸を生産するキミカ（東京都中央区、等原文善社長）は、千葉県富津市に新オフィスを建設する。事務所機能に加え研究開発、品質管理、福利厚生などの機能を集約した複合施設になる。4月に実施設計をまとめ、施工者の選定に入る見込み。7月に着工し、2022年7月の完成を目指す。設計は類設計室が担当している。

建設地は大堀1029に



完成イメージ（キミカ提供）

ある「千葉プラント」の隣接地。建物はS・RC造2階建て延べ3450平方メートルの規模。200台分の駐車場や倉庫も整備する。

千葉プラント内に分散している機能を集約する。従来と比べオフィススペースの床面積は3倍、研究スペースは4倍に広がる。機能を拡充し、需要増加と高い品質管理要求に応える。オフィススペースは24メートル×70メートルの無柱大空間にする。コミュニケーションスペースを拡充するなど、社員の連携強化に寄与するよう工夫する。

環境配慮として電気と井水を併用した「次世代型放射式空調」を採用。電力使用量を50%以上削減する。国内で唯一のアルギン酸専門メーカーという企業特性を踏まえBCP（事業継続計画）も考慮。敷地全体を50センチかさ上げするとともに、研究スペースと電気室を2階に配置。耐震性も同じような建物の基準に対し25%以上の余裕を持った構造設計にして地震発生に備える。